

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域住民、大学と高校が連携した地域防災力向上のための実践的防災・減災活動			
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	兵庫県立大学		
	活動グループ名	防災リーダー教育プログラム	参加学生等人数	28 人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	兵庫県立大学防災教育研究センター		
	責任者氏名	浦川 豪	連絡先電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	尼崎コスモシティ自治会		
	代表者氏名	炭田 基	連絡先電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動目標	尼崎小田高等学校が立地する地域が直面しているハザード、脆弱性を理解し、地域団体及び高校と連携した地域防災活動(あまおだ減災フェス)を企画、運営し、当該地区の地域防災力向上に貢献する。			
活動内容及び実績、評価	<p>(活動内容及び実績)</p> <p>学部生が尼崎コスモシティ自治会住民と連携し、ファッションを通じた地域防災活動にける協力関係の構築を目指した。①勉強会、②ワークショップ1回目、③ワークショップ2回目、④ファッションショーの4つのステップを設計し、実施した。</p> <p>① 勉強会</p> <ul style="list-style-type: none">・日 時:2023年8月19(土) 13:30~15:00・場 所:コスモシティ尼崎 集会室・参加人数:住民10名、尼崎小田高校4名、兵庫県立大学大学院3名・内 容:主旨説明、講義、高校生の地域活動報告、ディスカッション、アンケート <p>勉強会では、大学院生がファッションを通じた本取組みについての意義を説明し、浦川より尼崎コスモシティ自治会が立地する地域のリスクや防災対策について説明し、住民の防災意識向上の啓発等を行った。また、尼崎小田高等学校の生徒も参加し、生徒たちの地域活動についても情報共有した。ファッションを通じた地域防災活動の進め方、協力について議論した。</p> <p>② ワークショップ1回目</p> <ul style="list-style-type: none">・日 時:2023年9月16(土) 13:30~15:00・場 所:尼崎小田高校 視聴覚室・参加人数:住民3名、尼崎小田高校5名、兵庫県立大学5名、兵庫県立大学大学院3名内 容:Tシャツのデザインコンセプトを考える、アンケート <p>住民と本学学部生、尼崎小田高等学校の生徒からなる3チームを編成し、チームごとに、テーマや伝えたいイメージのコンセプト作成を行った。次に、テーマに沿ってTシャツをデザインした。また、Tシャツ以外のグッズを選定した。</p>			



写真:ワークショップ1回目の様子

③ ワークショップ 2 回目

・日 時:2023 年 10 月 21(土) 13:30~15:30

・場 所:尼崎小田高校 視聴覚室

・参加人数:住民 2 名、尼崎小田高校 4 名、兵庫県立大学 5 名、兵庫県立大学大学院3名

・内 容:T シャツと防災グッズ(プレスレット)の制作、アンケート

2回のワークショップを実施した。それぞれの班で1回目にデザインしたロゴをシルクスクリンでT シャツにプリントし、オリジナル T シャツを作成した。また、パラコードプレスレットも作成した。

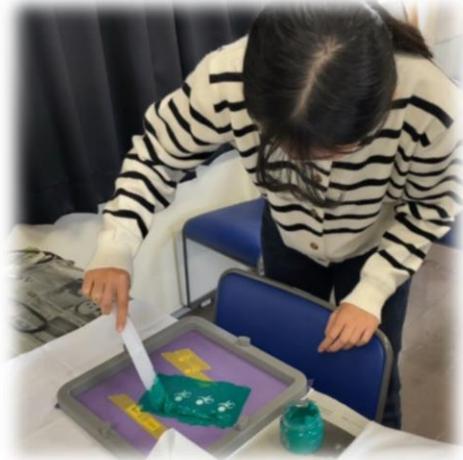
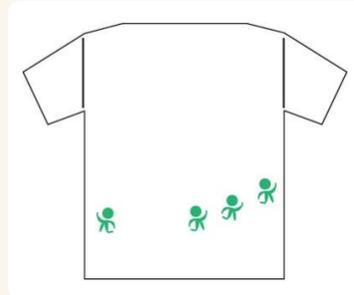


写真:ワークショップ2回目の様子

以下、各チームで作成したTシャツとグッズ(小物)を紹介する。

Aグループ

テーマ：
若い世代に防災への興味を持ってもらえるような
バズるデザイン



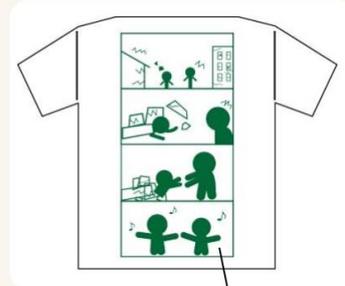
- ・可愛らしさ、ユニークさを加えた非常口
- ・ペンや笛を入れることができる

日頃から身につけやすく、Tシャツに合う色

Bグループ

テーマ：
誰でも着たくなるようなデザイン

・家族みんなで日常生活だけでなく、避難所
でも着られるように



- ・“B”はグループ名と、防災をローマ字で書いたときの頭文字
- ・四葉のクローバーは、家族や仲間の幸せを願う

・避難所でさまざまな用途で使えるように

・避難所で目立ち、一目で家族や仲間と分かるように

Cグループ

テーマ：
普段着でも使えるようなものを大切な人と共有できるデザイン

隣にいる人とつながる

普段着 × 好き

大切な人に“好き”を伝えられるように



お花を見て嫌な気持ちにならないように、この服を着て幸せな時間を共有したい

・スポーティーな感じで、汚れが目立たないように
・Tシャツのインクの色と統一感を出した

写真：製作したロゴ入りTシャツとグッズ

④ 発表会(ファッションショー)

- ・日 時:2023年11月12(日) 12:00~14:30
- ・場 所:小田南生涯学習センター3階ホール
- ・参加人数:住民3名、尼崎小田高校7名、兵庫県立大学5名、兵庫県立大学大学院6名
- ・内 容:リハーサル、ファッションショー本番、アンケート

発表会では、上記の製作物を身に着け、発表することにより、参加者同士に一体感や連帯感を生み、また観客の人たちへ取組を発信することで、地域防災力向上につながる取り組みについての共感を与えることを目的とした。

それぞれのチームで制作したTシャツやグッズを身に着け観客に向けてファッションショーを開催した。それぞれの班でポーズを考える等、これまでのプロセスを通して得られた世代を越えた繋がりを感ずることができた。



写真:ファッションショーの様子

(評価)

- ・想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等)
想定した活動が実施できたが、参加する地域住民の数が想定よりも少なかったことが残念であった。
 - ・学生等関わった地域、団体の活動の変化等
特に、地域の中核となる意識の高い住民が参加してくれた。地域防災活動にファッションという視点を入れることで、楽しく地域の絆を強くすることができることを体験してくれたと思われる。
 - ・指導教員の視点を踏まえた、連携先(コスモシティ)の活動変化や学生の学習意欲・地域に対する考え方の変化
ファッションと防災がどのように関連し、地域防災活動に貢献できるのかを地域住民の方々も疑問に思いながらスタートしたが、学生との制作活動、ファッションショーを通して、訓練等と異なる切り口で住民間をつなぐツールとなることを理解し、積極的に参加してくれるようになったと思われる。また、参加学生も段階的なプロセスに参加することで、自分の考えを述べ、共に創りあげることの重要性を理解できたと思われる。
 - ・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等
以下、学生の意見を記す。
 - 高校生や地域住民の方、イベントの運営の方など普段関わることのない世代の方と意見を出し合うことができた
 - ファッションショーという一つのものを作り上げるという貴重な体験ができた
 - ファッションと防災を日常に取り入れるというフェーズフリーの考え方を実践して、より身近に防災を考えることができた
 - 交流した方との自己紹介時間が少なかったため、お互いを知る時間がもう少しほしかった
 - Tシャツやプレスレットづくりの際に、自分たちで作業時間内に終わられるデザインにすれば良かった
 - ファッションショーをしているときにスライドでTシャツなどを示しておけば良かった
 - ・地域住民の学習意欲、地域に対する考え方の変化等
以下、参加した地域住民の方々の意見を記す。
 - 貴重な体験ができて楽しかった
 - チームの人と協力することができた
 - 世代の異なる人達と意見を交わしながら学べたのが良かった
 - 防災の新しい切り口を発見できた
 - いろんな考えをみんなで話すことができて良い方向に進んだ
- 次に、尼崎市立花西小学校において出前防災講義を実施した内容を報告する。

日時 2023年12月18日(月)9時35分～10時20分

場所 尼崎市立花西小学校

内容 おうちの防災ポイント探し

・授業目標「災害時における建物周辺や建物の内装の危険な場所を理解し、授業を通して日常的な備えをしよう。」

アニメキャラクターの家の模型から児童たちに危険な箇所や対策が施されている箇所を見つけ出してもらおうゲーム型授業とした。

授業の初めには、家屋の防災対策を考える上で必要となる知識についての説明を行い、その後小学生たちにはグループに分かれてもらい家の模型を観察してもらった。最後に答え合わせとともに模型の解説を行い、学びを深めてもらった。



写真：講義の様子

授業の進行等について以下を工夫した。

- ・10-15分程度で工程を区切ることで児童たちを飽きさせない
- ・体験型にすることでわがこと意識を持ちやすく
- ・解説の時間を設け、「楽しかった」だけで終わらせない
- ・危険箇所や対策されている点を書き込んでもらうためのプリント、解説シート、おうちのチェックシートを配布し、授業後も見直せるようにする

・身近なテーマ設定で、家庭でも考えやすい内容にする

8割以上の生徒が授業を受けて「楽しかった」と回答した。授業の理解度も高かった。以下、授業を受けた生徒の声を記述する。

- ・アニメで例えるのが分かりやすかった
- ・マンションの上の階の方に住んでいる人は「長周期地震動」についてよく知っておく必要があるということが分かった
- ・ローリングストックという考え方のもと、非常食を日常から食べておくことに意味があることが分かった
- ・家ででの災害の備え、非常食のことを家族に話したい
- ・液状化や長周期地震動の動画があればもっと分かりやすかった
- ・防災グッズ等の実物を見せて使い方を教えてほしい

実施した学部生からは以下の感想があった。

・授業準備を進める過程で様々な問題が出てきて、何度も案を練り直したり、進行方法を考え直したりしたが、最終的には児童たちに楽しんでもらいながら、しっかり防災について考えてもらえる授業になったと思う。

・対象年齢を考慮しつつ、限られた時間の中で、楽しさと学びのバランスを考えながら授業を構成するのは難しかったが、私たちにとっても良い学びの機会となった。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。